

母牛、狼を殺さ殺す語（前半～p.614）

今は昔 奈良の西の原わたりに住みけた下衆の 農業のために家に牝牛を飼ひけるが、子を一つ持ちたつけるを 秋ひが 田畠に放ちたつける」定まりて夕さりは 小童べ行きて追ひ入れける」とを 家主も小童べもみな忘れて 追ひ入れざりければ その牛、子を真つて 田畠に食みあつきければ「、夕暮れ方に 大きなる狼一つ出で来たつて、この牛の子を食はむじでつきてめぐりありきれる」母牛、子をかなしむがゆゑに 狼のめぐるにつきて、子を食はせじと思ひて、狼に向かひて防きめぐりけるせば「、狼に岸の築垣のやへなるがあつかる所を後ろにしげてめぐりける間に」母牛、狼に向かひやまにして、「にはかにほくと寄りて突きけねば 狼 その岸に仰けざまに腰を深きつけられにければ」運動がありけりと 母牛は 放がひゆるものなりば、私は食ひ殺されなむすと悪ひかるべく 力を起して後ろ足を強く踏み張りて、強く突かへたりけるせば「、狼はそ堪へずして死にナリ。

牛、それとも知らずして、狼はこまだ生きたるどや思ひけぬ、突かへながら夜もすがら秋の夜の長きになむ、踏み張つて立てりければ、子は傍らり立ちてなむ鳴きけ。

問題：問題に指定がなくとも漢字で「おっこ」のはㄨ、「近」のもㄨ。正解のみ正解。

一傍線部「今は昔～飼ひける」を口語訳し、また助動詞を指摘し文法的意味を、「重傍線部の助詞の文法的働きを答へよ。

二傍線部「子を一つ持ちたつけるを」にについて 口語訳し、また助動詞と助詞を指摘して文法的意味を答へよ。

三傍線部「田畠に放ちたつけるに」にについて 口語訳し、また助動詞と助詞を指摘して文法的意味を答へよ。

四傍線部「定まりて夕さりは」を口語訳せよ。

五傍線部「小童べ」の読みを答へよ。

六傍線部「追ひ入れける」とを、「を」を文法的に説明せよ。

七傍線部「追ひ入れざりければ」にについて 口語訳し、また助動詞と助詞を指摘して文法的意味を答へよ。

八傍線部「具し」との意味を答へよ。

九傍線部「田畠に食みあつきけるせば」を口語訳し、助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。また「食み」の読みを答へよ。

十傍線部「大きなる狼一つ出で來たりて」を口語訳し、用言を抜き出し品詞を答へよ。また「重傍線部「なる」を文法的に説明せよ。

十一傍線部「食はむじ」とについて、口語訳し、この動作の主体を文中の語で答へよ。助動詞を抜き出し、文法的意味を答へよ。

十二傍線部「かなしむ」の意味を答へよ。また、このよつな語のこととを一般に何と呼ぶか、漢字五字で答へよ。

十三傍線部「子を食はせじと思ひて」について 口語訳し、助動詞を抜き出し、文法的意味を答へよ。

十四傍線部「狼、岸のへめぐりける間に」を口語訳せよ。但し、必要な意訳は認めるものとする。

十五傍線部「向かひやまにして」を口語訳せよ。但し、直訳できなう場合は教科書の脚注に従つものとする。（極力直訳に努める）

十六傍線部「にはかに深きければ」について、半語と連体修飾語を補い口語訳し、「重傍線部の語の文法的意味・働きを答へよ。

十七傍線部「その岸にて深きつけられにければ」を口語訳し、また「突きつけられにければ」を品詞分解し、文法的説明をせよ。

十八傍線部「え動かであつけるに」を口語訳し、また品詞分解して文法的説明をせよ。

十九傍線部「放ちつるのなれば」について、口語訳し、助動詞と助詞を指摘して文法的説明をした方がいいと思います。

二十傍線部「私は食ひ殺されなむすと思ひける」を口語訳し、品詞分解して文法的説明をせよ。

二二傍線部「強く突かへたりけるせば」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

二二傍線部「え堪へずして死にけり」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

二三傍線部「知らずして」を二箇で書き換へよ。（漢字仮名交じつて二行）

一四傍線部「いまだ生きたぬとや思ひけむ」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

一五傍線部「誰が思ひけむ」と思つたのか、答へよ。ここでは句讀がないが係り結びが成立している。理由を説明せよ。

一六傍線部「夜もすがら秋の夜の長きになむ」を、助詞に注意して口語訳せよ。また、係助詞「なむ」の結びについて説明せよ。

一七傍線部「踏み張りて立てりければ」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

- 二 訳=「今となつてはやひ難い」(「人が」)が「～が」は「～な(人・もの)で～な(人・もの)が」と訳す。同格の用法)

三 訳=「田に放してしたが」 助動詞=「たり・存続」
九 訳=「決まつて夕方には」(文脈から「小童ぐ」の翻訳であった)が分かること

四 訳=「田で草を食べて柴を回してこた壘に」(「おつ」は「歩き回る」、「柴」は「あぶる」なので注意)

五 読み=「いわむねぐ」(「わのせぐ」、也可)

六 説明=「土語『奈良の西の京あたりに住みける下衆の 農業のために家に牝牛を飼ひけぬ』が『子を一つ持つたつむ』を述語『田居に放ちたつむ』とした」と示す連用修飾格を表す「格助詞」(解説欄に合わせて「連用修飾格の格助詞」等)
七 訳=「子牛を一頭もつていた牛を」 助動詞=「たり・存続」
八 意味=「連れで」(一緒に) ない together の意味(めいは))
九 訳=「田で草を食べて柴を回してこた壘に」(「おつ」は「歩き回る」、「柴」は「あぶる」なので注意)

十 訳=「決まつて夕方には」(文脈から「小童ぐ」の翻訳であった)が分かること

十一 説明=「形容動詞なり活用『大きなり』の連体形の活用語尾」(断定の助動詞ではなこと点に注意)

十二 訳=「(牛小屋に) 追い入れなかつたので」 助動詞=「わづ・打消」 助詞=「はづ・原因(理由)」
十三 訳=「(牛小屋に) 追い入れなかつたので」 助動詞=「じ・打消意志」(打ち消す)ではなく「打消」だ
十四 訳=「狼が、片方が塵で土壘のよくなつてゐる所を後ろに(背後)して歩き回つていた間に」
(「片づ」と「築垣やつすぬ」が「の」によって同格 訳は教科書脚注に従う)

十五 訳=「狼を正面に見ゆべる角度で」(直訳すれば「狼に向かう様子で」など。少かつてくこと) が接続助詞でない点に注意 偶然条件は偶発条件でも可。または「原因・理由の『ば』」の解釈も可。)

十六 訳=「母牛は、突然に狼をじつと近づいて突いたといふ」(突いたので) も可。文法書 p.97 参照)

十七 訳=「その崖にのけたつかつて腹を突きつけられてしまつたので」

十八 訳=「動けなつていたが」(「へ」+打消語) で「～できなつて」。不可能を表す。
品詞分解=「副詞『へ』+力行四段活用動詞『動く』未然形『突きつく』+過去の助動詞『けつ』已然形『けれ』+原因・理由の接続助詞『ば』」
(「へ」の「つ」『ぬ』が過去の助動詞に付くと「強意」で訳す)。「へてしまつた」にれセオニー。

十九 訳=「もじ放しつしまつたのであれば」 助動詞=「つる・強意」なり・断定 助詞=「ば・仮定条件」(文法書 p.97 大事)
二十 訳=「自分はもひとつ食て殺されてしまつだなかつ思つたのだ」
(「へ」の「つ」『ぬ』が推量の助動詞に付くと「強意」で訳す)。「もひとつしてしまつた」、「もひとつしてしまつだなかつ思つた」の

二十一 訳=「押しつけたままにしていた」「突から」(「ふ」を反復・継続の「コトノンス」。『せじ』は程度よりも時間で訳す)
助動詞=「たり・存続」
二十二 訳=「耐えられないので死んだ」(「え〜打消語」の不可能表現) 助動詞=「ず・打消」
二十三 書き換え=「知りで」「で」は「打消接続」の接続助詞「すつて」は「打消す」+単純接続「し」。
二十四 訳=「まだ生きてゐると思つたが」 助動詞=「たる・存続」
理由=「弓用句だから」(理由の説明を求められたときは「～かんじ」で「。」も必要) 思つた人=「編者」
二十五 訳=「押しつけたままで」(深をつけたままで) も可。「ふ」(活用して「く」)を反復・継続を表す上代の助動詞)
二十六 訳=「一晩中、秋の夜に長夜に」(「秋の夜長」) が流暢だが、同格を意識して
結び=「けづ」に接続助詞が付いて、文が終始してこないので係り結びが流れ(消滅して) こゑ。(文法書 p.108 参照)

二十七 訳=「踏ん張つて立つていたので」(「たとく」も可) 助動詞=「り・存続」
二十八 訳=「歩き回つて柴を回してこた壘に」(「おつ」は「歩き回る」、「柴」は「あぶる」なので注意)

母牛、狼を突き殺す語（後半=p.615～）

「じれを」牛主の隣なりける小童べ、「それもまた」牛追ひ入れむとて、田畠に行きたりけるが、狼の牛をめぐらあきけるまでは見けれども「をさなきやつじて」田の暮れにければ、牛を追ひて家に帰り来たりければ「をさなきくも言は」でありける」かの牛主の「夜明けて、一 夜、牛を追ひ入れざりける。その牛は食みや失せぬるも」と言ひけるとおどりて、隣の小童べ、「御牛ば、夜前、しかしかの所にていじ、狼のめぐらありをしか」と言ひければ、牛主聞きおどりかれて、惑ひをわきて行きて見ければ、牛、大きなる狼を片岸に突きつけて動かで立てり。子は傍りに鳴きて伏せり。牛主の来たれるを見て、そのときになむ、狼を放ちたりければ、狼は死にて、みな動かでぬありける。牛主これを見て、あさましと思ひける」「放ちては殺されぬと思ひて、夜もすがら放たざりけるなりけり」と心地で、牛をなむ、「いみじくかし」がりけるやつかな」とほめて、眞して家に帰りにけり。

しかれば、獸なれども、魂あり、かしにまやつせ、かくねありける。」これはまさしくそのほどとなる者の聞き継ぎて、かく語つてへたるといだ。

問題様 問題に「指定がなくとも漢字で「おし」と「近」とのも×、「近」とのも×。正解のみ正解。

一 傍線部「じれを」は「こ」を受けるか、前半部を参照し口語で答へよ。また、どりに係るか、文中の表現から一文節で答へよ。

二 傍線部「牛主の隣なりける」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

三 傍線部「それもまた」につて、「それ」が指示するものを明確にして口語訳せよ。

四 傍線部「牛追ひ入れむとて」を、主語を補つて口語訳せよ。また、助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

五 傍線部「田居に行きたりけるが」を口語訳し、助動詞を抜き出して文法的意味を、助詞を抜き出して何を表す何助詞かを答へよ。

六 傍線部「の」及び「を」について、何を表す何助詞かを答へよ。

七 傍線部「をさなきやつじて」を口語訳せよ。また、付属語を抜き出して口語及び文法的意味・働きを答へよ。

八 傍線部「日の暮れにければ」を口語訳せよ。また、付属語を抜き出して口語及び文法的意味・働きを答へよ。

九 傍線部「帰り来たりけれども」を品詞分解せよ。

十 傍線部「ともかくも言は」でありける」を口語訳し、また、じの動作の主体は何か、文中の語で答へよ。

十一 傍線部「牛を追ひ入れざりける」を口語訳し、また、助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

十二 傍線部「食みや失せぬるも」を口語訳し、また品詞分解し、これでもかと言わんばかりに文法的説明をしなければならない。

十四 傍線部「ぞ」は係助詞であるが、結びはじつなつてゐるか、根拠となる部分を明示して説明せよ。

十五 傍線部「狼のめぐらあきしか」を口語訳し、また、助動詞を抜き出して必要な文法的説明をせよ。

十六 傍線部「惑ひをわきて、行きて見ければ」を口語訳し、また、「ば」何を表す何助詞か、答へよ。

十七 傍線部「なる」は文法的にどのよつなものか、説明せよ。

十八 傍線部「ともかくも言は」でありける」を口語訳し、また品詞分解して文法的説明をせよ。

十九 傍線部「来たれる」を品詞分解して文法的説明をせよ。また、傍線部「なる」について必要な文法的説明をせよ。

二十 傍線部「みな動かでぬむありける」を口語訳せよ。

二十一 傍線部「あさましと思ひける」を口語訳せよ。

二十二 傍線部「狼の來たりて食はむ」としけるを」を口語訳し、また、助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

二十三 傍線部「放ちては殺されぬむと思ひて」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

二十四 傍線部「夜もすがら放たざりけるなりけり」を口語訳し、助動詞を抜き出して文法的意味を答へられぬよ」とおへべれめた、「夜もすがら」に対する語を答へよ。

二十五 傍線部「心得て」につて、これは「動詞+助詞」であるが、動詞の活用の型、活用形、終止形に振り返りを振りて答へよ。

二十六 傍線部「なむ」は係助詞であるが、結びはじつないでいるか、根拠となる部分を明示して説明せよ。

二十七 傍線部「いみじくかしこかつけるやつかな」を口語訳し、また、用語を抜き出し口語と終止形を答へよ。

二十八 傍線部「獸なれども、かくぞありける」を口語訳し、また助動詞を抜き出して文法的意味を答へよ。

二十九 傍線部「かく語り伝へたるとや」の意味を答へよ。また、「や」の後に省略されてくる用語を答へよ。

三十 傍線部「物語が收められてくる書物の題名及びその文学的分野を答へよ。

三十一 傍線部「の物語は、全体を通して一定の書を出し、及び結びで統一されてくる。書を出すと續びの表現を答へよ。

三十二 傍線部「の物語は、全体である三ヶ所を舞台としているが、それはどこか、現在の国名と併わせて答へよ。

- 一 受ける部分=「牛の親子が田で草を食べてこたときに狼が来て牛の周りを歩き回つてこた」と（同義なら可）
 係る部分=「言ひければ」（五行もジャンパ。）「ここに住むまではひたすらの状況の陳述。）
- 二 訳=「牛主の隣に住んでいた子供」 助動詞=「なり・断定」 ける・過去（存在を表す「なり」。種類としては「断定」となる。）
- 三 訳=「この子供もまた（同様に）（「い」の家でも子供が牛を追う入れることになつてこたよつた。忘れん坊の小童べとは別人。）
- 四 訳=「牛主の隣に住んでいた子供が、牛を追い入れよか」として」 助動詞=「む・意志」（「と」は「と言ひて」、「と願つて」。）
- 五 訳=「田に行つたが」 助動詞=「たり・完了」 ける・過去 助詞=「こ・連用修飾格の格助詞」が・単純接続の接続助詞
- の=「主格の格助詞」 を=「連用修飾格の格助詞（動作の対象）」
- 六 訳=「思慮に欠ける子供のことなので」（脚注に従つ） も=「形容詞ク活用『をそな』」 連体形『をそなえ』の活用語尾
- 七 訳=「口が暮れてしまつたので」（元ア）+過去は「へてしまつ」「へてしまつた」
- 八 訳=「付属語=「の・主格の格助詞」に・記アの助動詞・けれ・過去の助動詞・ば・原因・理由の接続助詞
- 九 品詞分解=「う行四段活用動詞『帰り来たる』連用形『帰り来たり』+過去の助動詞『けり』已然形『けれ』
- +逆接の接続助詞『とも』（「で」は打消接続。「に」は原因・理由。） 主体=「牛主の隣なづける小童べ」
- 十 訳=「じつとも言わないのでいたので」（「で」は打消接続。「に」は原因・理由。） や=「り」で切れないので注意
- 十一 訳=「牛を追い入れなかつた」 助動詞=「わり・打消 ける・過去」
- 十二 訳=「草を食べながらぐらぐらせんせんかへ行つてしまつてこただらつた」（「む」現在推量。）「今」はまへてこただらつた。
- 品詞分解=「マ行四段活用動詞『食む』連用形『食む』+係助詞『や』 +カ行ト一段活用『失す』連用形『失せ』
- +完了アの助動詞『ぬ』終止形『ぬ』+現在推量の助動詞『らむ』係助詞『や』により連体形『らむ』
- 十三 説明=「『言ひければ』の助動詞『けり』が本来續びとなるはずだが、接続助詞『とも』が接続して文が終始していなつたため
- 係り結びが消滅して（流れ）こむ」（回りよひな説明ない可。接続助詞は傍線部が一つ抜ける毎にマイナス一点が。）
- 十四 訳=「狼が（牛の）周りを歩き回つてこた」（「の」は主格。）
- 十五 訳=「あわてふためき騒いで行つて見た」といふ（惑ふ）は「あわてふためく」。迷ふ」としなふ。
- 十六 助動詞=「しか・過去の助動詞『き』が係助詞『い』ア』により自然形『しか』となつてこむ。」（「せ」・き・し・しか・。）
- 十七 訳=「偶然条件を表す接続助詞
- 十八 ない=「形容動詞ナリ活用『大きなり』連体形『大きなる』の活用語尾（断定の助動詞ではないので注意 每回聞かれてます。）
- 十九 訳=「動かないで立つてこた」 品詞分解=「カ行四段活用動詞『動く』未然形『動か』+打消接続の接続助詞『で』
- +タ行四段活用動詞『立つ』自然形『立て』+存続の助動詞『つ』終止形『つ』
- （文法書によつては「へていた」と訳される「つ」を完了アとしている場合もあるので「完ア」の助動詞としても可。）
- （同様に、「り」はサ変の未然形 四段の已然形に接続となつてこるが、サ変・四段の命令形とする説もあるのでこれも可。）
- 二十 助動詞=「り・存続」（問十七と同様「完了」）でもいいや。「存続とは何か」を議論しだすと長くなるので
- 品詞分解=「う行四段活用動詞『来たる』自然形（または品々形）『來たれ』+完了アの助動詞『つ』連体形『る』
- 二十一 訳=「全く動かないでいた」（「みな」は「全く」で）は打消接続「へないで」。」ける」は過去「なむ ける」で係り結び。
- 二二 訳=「驚きあきれるばかりだと思つたが」（「あさまし」=「驚きあきれるばかりだ」、「ける」過去「に」逆接）
- 二三 訳=「狼が来て食べよかとしたのを」（「の」は主格「を」は準体助詞） 助動詞=「む・意志」ける・過去」
- 二四 訳=「放したら殺されてしまつた」（「なむ」助動詞=「れ・受身」な・強意 む・推量」「れ+なむ」ではな。）
- 二五 訳=「一晩中放さなかつたのだなあ」 助動詞=「わり・打消 ける・過去 なり・断定 けり・詠嘆」（助動詞の巣。）
- 反対語=「ひねもす」（漢字で「終日」。知識としてぶつかる）
- 二六 訳=「ほめての動詞『ほむ』が本来結びとなるはずだが、接続助詞『て』が接続して文が終始していないため、
- 二七 訳=「たゞそつ賢じやつだなあ」用言=「いみじく・形容詞・いみじ かし」かり・形容詞・かし」くる・助動詞・けり」
- （「ける」（助動詞）も「かな」（終助詞）も詠嘆。「かし」は「い」ではなく「賢」の意なので不本意 古今同義。）
- 二八 訳=「獸であつても、思慮があり、賢いやつば、」のよつであるのだなあ」 助動詞=「なれ・断定 ける・過去」
- 二九 意味=「このよつに語つ伝えられてこるとかこいつなどだ」（傍線部が省略されてこむ） 省略=「言ふ」
- 三十 題名=「今昔物語集」（今昔物語は略称・通称。） 分野=「説話集」
- 三一 書き出し=「今ハ昔 結び=「トナム語り伝ヘタルトヤ」
- 三二 舞台=「天竺・インダ、震旦・中国、本朝・日本」
- 三三 作家=「芥川龍之介」 作品名=「羅生門」・「臺」（ほかに『芋粥』・『藪の虫』・『偷窓』など。『地獄變』は手稿拾遺に取材。）

赤シートを使って暗記・確認用に利用して下さい。
各傍線・記号は 重要文語・表現（名詞・動詞・形容詞・形容動詞ほか） 助動詞 助詞 係り 繰び（または係り 結びの流れ）を表す

今は昔、奈良の京わたりに住みける下衆の、
今となつてはもつ昔のことだが、奈良の石原あたりに住んでいた身分の低い人で

今は昔、奈良の西の京わたりに住みける下衆の、

農業のために家に牝牛を飼つていた人が、子牛を一頭持つていたのを（その牛を）秋じふ、田に牛を放していつたが、決まって 夕方に 子供が行つて追い入れていたことを

定まりて 夕さりは、小童べ行きて追ひ入れけることを、家主も小童べもみな忘れていて
追い入れなかつたので その牛が、子牛を連れで 田で草を食べて歩き回つていた時

追ひ入れざりければ、その牛、子を眞じて、田畠に食みありきけるほどじこ、

夕暮れごろに、大きな 狼が一匹出てきて この牛の子を食べよびと

牛の親子について歩き回つていたといふ。母牛は、子牛をいとしいと思つがゆゑに、狼が歩き回る後ろについて

つきしめぐりありきけるこ、 母牛、子をかなしむがゆゑに、狼のめぐれにつきしめぐりありきける

子牛を食わせまいと思って、狼に向かつて子を守るように歩き回つたときこ、

狼が、片方が塵で土壙のようになつてゐる所を 後ろにして 歩き回つてこた間に、

狼、片岸の築垣のやうなるがありける所を後ろにしてめぐりける間に、

母牛は、狼を正面に見すゝる角度で、突然に じうと近づいて笑いたといふ

母牛、狼に向かひざまにて、こはかに はくと寄りて突きければ、

狼は、その岸にのけぞつたかつこで腹を押しつけられてしまつたので、動けないでいたが、

母牛は、もう放してしまつたのであれば、自分はきっと食い殺されてしまうだらうと思ったので、

狼、その岸に仰けざまにて、腹を突きつけられに ければ、え動かでありけるこ、

母牛は、放ちつるものなれば、我は食ひ殺されなむずと思ひけるこ、

力を奮い立たせて後ろ足を強く踏ん張つて

押しつけたままにしてこたうちこ、狼は耐（堪）えられないで死んだ。

牛、それをも知らずして、狼はいまだ生きたるとや思ひけむ、
押しつけたまで、一晩中、秋の夜で長い夜じふ、踏ん張つて立つていつたので、子牛はそばに立つて鳴いた。

突かへながら、夜もすがら秋の夜の長きになむ、踏み張りて立てりければ、子は傍らに立ちてなむ鳴きける。

母牛、狼を突き殺す語(後半) 本文 口語訳

赤シートを使って暗記・確認用に利用して下さい。

各傍線・記号は 重要文語・表現(名詞・動詞・形容詞・形容動詞ほか) 助動詞 助詞 係り 繰び(または係り 結びの流れ) を表す

「これを、牛主の隣なりける小童べ、それもまた、牛追ひ入れむとて、田居に行わたりけるが、
狼が牛の後をついて歩き回るたまでは見たが、思慮に欠ける子供の」となつて、
狼の牛をめぐりありきけるまでは見けれども、をさなきやつて、
日が暮れてしまつたので、牛を追つて家に帰つて来たが、どうとも言わないでいたといふが、
田の暮れにければ、牛を追ひて家に帰り来たりけれども、ともかくも言はであつける。」
例の牛主が、夜が明けて「夜、牛を追い入れなかつた。その牛は草を食べながら今まへ行つてしまつてゐるのだからしが。
かの牛主の、夜明けて、「夜、牛を追ひ入れせり」けぬ。その牛は食みや失せぬらむ。」
と言つた時に、
隣の子供は、「あなたの牛は、昨夜、それそれといふ」狼が後をついて歩き回つていた。
と言ひけるときには、隣の小童べ、「御牛は、夜前、しかしかの所にて」そこで、狼のめぐりありきしか。
と言つたので、牛主は聞いて驚いて、慌てふためき騒いで行つて見ければ、
牛は、大きな狼を片方が産のようになつているといふ押ししきて動かないで立つていた。
と言ひければ、牛主聞きおどりあひて、惑ひそわきて行きて見ければ、
牛、大きな狼を片方に、
突きつけて動かで立てり。
狼は死んで、全く動かねば、
狼は死んで、みな動かで、なむありけぬ。
牛主はこれを見て、驚きあきれるばかりだと思つたが、「昨夜、狼が来て食べよつしたのを
牛主これを見て、あさましと思ひけるに、「夜前、狼の來たりて食はむ」といふ。
「のよつて突きつけたが、放したまゝ殺されてしまつだねつて思つて、晩中放さなかつたのだなあ。」
かく突きつけたりけるに、放ちては殺されなむと思ひて、夜もすがら放たざりけるなりけり。
と理解して、牛を、「たいへん賢いやつだなあ」と褒めて、連れて家に帰つた。
心得て、牛をなむ、「いみじくかしこかりけるやつかな」とほめて、具して家に帰りにけり。
「あるから、獸であつても、思慮があり、賢いやつましかねば、獸なれども、魂あり、かしきをやつは、かくぞありけぬ。
」の話は、確かにその近くに住んでいた者が聞き継いで、「のよつて語つて貯められて居るとか聞つてんだ。
」れば、おれじへんのほとつなる者の聞き継ぎて、かく語つて貯へたものだ。

読解に際して注意すべき点

- 助動詞は活用や活用の型を覚べぬ前」、意味と接続をしつかり覚えておくべき。ただし過去の「を」の活用は特殊型なので暗記する。
- 接続助詞「ば」「が」「に」「を」「て」、格助詞「が」「の」「を」「て」は押さえぬ。「ば」の訳し方、「が」「を」「と」が何助詞なのか注意。
- もつとい加減係り結びは分かりたい。P.108の表は頭に入つてこますか。「係り結びの消滅(流れ)」を説明できますか。
- 古今異義語に注意。「あれまし」の意味が「あれまし」と「なまめかし」の意味が「なまめかし」なり問題になりない。聞いたことのある言葉ほど気をつけ。
- 前半の「小童べ」及び「追い入れられなかつた牛」と後半の「隣の小童べ」及び「追い入れられた牛」は異なるので注意。同じ様なシチューション((牛飼い+)牛+世語する子供+田)が一つ存在してゐる。このへん話が入り組んでるので再確認を。